

がん薬物療法専門医 制度6年 人材が不足

病院の 実力

神奈川編 44

今回の「病院の実力」は、抗がん剤治療の専門家である「がん薬物療法専門医」

病院の実力「がん薬物療法専門医」

専門医別2010年治療実績（読売新聞調べ）

専門医氏名	所属医療機関	得意とする分野	患者数を担当した患者数	セカンドオピニオンを求めた患者数
赤木 秀子	けいゆう	消化器	約30	1
有岡 仁	横浜労災	乳がん、消化器がん、肺がん	80	10
引野 幸司	茅ヶ崎徳洲会総合	呼吸器、固形がん、緩和ケア	100~120	10
藤井 知紀	関東労災	血液、呼吸器、原発不明、乳腺、消化管	45	2
伊東 友弘	昭和大横浜市北部	消化器がん	30	2
上野 誠	県立がんセ	肝臓、胆道、膵(すい)臓	50(新規)	200
斉藤 春洋	"	肺がん	270(医師4人で)	113(同)
高崎 啓孝	"	血液	50~70	-
本村 茂樹	"	リンパ腫、大腸がん	10	15
橋本 千寿子	大和市立	血液、大腸、乳、原発不明など	60~70	10
加藤 晃史	県立循環器呼吸器病七	肺がん、中皮腫	250	15
中島 貴子	聖マリアンナ医大	食道、胃、大腸、肝臓、胆道、膵臓、原発不明、肉腫、乳腺などの固形がん	182	4
斎藤 雄紀	東海大	乳、甲状腺	約50	2~3
白杉 由香理	"	血液、造血幹細胞移植	100(医師2人で)	0
草野 暢子	藤沢市民	呼吸器領域(肺がんなど)	50	3~4
西川 正憲	"	肺がん	約50	2

敬称略、「セ」はセンター、「一」は不明または無回答。

を取り上げた。

抗がん剤治療は、延命やがんの縮小効果が期待される一方で、毒性の強い薬を扱うだけに、副作用にも十分配慮する必要がある。日本人の2人に1人ががんになるとされる今、抗がん剤治療について幅広い知識と経験を持つ「がん薬物療法専門医」は、がん治療の現場で重要な役割を担う存在

といえる。

表には、地元の専門医の氏名と、所属する医療機関名、得意とする分野、抗がん剤治療を担当した患者数、患者が治療について別の医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」への対応をした患者数(ともに2010年実績)を載せた。ただ、日本臨床腫瘍学会がこの専門医制度を創設し

てからまだ6年で、取得者は今年4月時点で全国に600人足らず。このため、専門医が数人しかいない県もある。施設によっては、がん治療に関する別の認定資格を持つ医師や、現場で経験を積んだ医師が抗がん剤治療を担う場合も多

い。がん薬物療法専門医がまだ広く浸透していないことなどから、数少ない専門医が激務を強いられるという指摘もある。専門知識を患者の治療に十分活用してもらうためにも、人材育成や治療体制の整備が待たれるところだ。